

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

ヒナカンアオイ

Asarum okinawense

日本植物分類学会

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 維管束植物分科会



環境省 編

令和7（2025）年3月



この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：日本植物分類学会. 2025. ヒナカンアオイ. 環境省（編） 第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物.

Citation: Japanese Society for Plant Systematics. 2025. *Asarum okinawense* Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook: Threatened wildlife of Japan*.

ヒナカンアオイ

*Asarum okinawense***カテゴリー判定結果** 絶滅危惧 I A 類 (CR) 基準 D

推定開花株数が 50 個体未満。

評価分科会： 維管束植物分科会

基礎情報

【形態】

ミヤビカンアオイに似るが、葉柄が緑色、葉の表面に雲紋状の斑がある。萼筒はくびれない。萼裂片は長さ 5 mm 内外、卵形、縁は反り返らず、基部に小突起がある。

【生活史】

多年草。

【生育環境】

山地の石灰岩地帯の林床に生育。

【分布域】

沖縄県（嘉津宇岳）に分布。

現在の生育状況

【生育地の現況】

2018 年調査では情報は得られなかったが、現状は 2007 年調査時と変化がないと推測される。2007 年調査では 10 年前に数個体を確認した自生地では、発見できなかった。絶滅したおそれがあるが、再発見の可能性を考慮し、基準 D により CR とした。

現地調査の集計結果 2007 年調査

【「現存する株数」別のメッシュ数】

<10	<50	<100	<1000	<10000	>10000	合計	絶滅	その他
0	0	0	0	0	0	0	0	1

【存続を脅かす要因上位3項目の件数】

1 番目	2 番目	3 番目
要因		
件数		

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒナカンアオイ	<i>Asarum okinawense</i>	CR
第4次 2019:	ヒナカンアオイ	<i>Asarum okinawense</i>	CR
第4次 2018:	ヒナカンアオイ	<i>Asarum okinawense</i>	CR
第4次 2017:	ヒナカンアオイ	<i>Asarum okinawense</i>	CR
第4次 2015:	ヒナカンアオイ	<i>Asarum okinawense</i>	CR
第4次:	ヒナカンアオイ	<i>Asarum okinawense</i>	CR
第3次:	ヒナカンアオイ	<i>Asarum okinawense</i>	CR
第2次:	ヒナカンアオイ	<i>Heterotropa okinawensis</i>	CR
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和4年度末時点）

沖縄県[絶滅危惧 I A 類(CR)]

保護に係る法令指定状況（令和4年度末時点）

国内希少野生動植物種

参考文献

- 大橋広好・門田祐一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編），2015．改訂新版日本の野生植物 1．391pp., 272pls. 平凡社，東京．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Asarum okinawense has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Asarum okinawense* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Threat types:	No Data
Law designation status for conservation	Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

執筆者:	日本植物分類学会
Author:	Japanese Society for Plant Systematics

公表年月：2025 年 3 月